新　第4号（2011年1月28日 発行）

# NEW ネットワークしまだ

Network Shimada

島田療育センター
院長　木実谷 哲史

## 平成22年度　島田療育センター公開シンポジウム
## 障害に対するコミュニケーション支援　―AT（支援技術）の応用

地域連携情報室　神田水太

平成 13 年に創立 40 周年記念事業として始めた公開シンポジウムも、今回で第 10 回目を迎えます。今年度はここ数年とは趣向を変え、「障害へのコミュニケーション支援ーAT（支援技術）の応用」というテーマを設定いたしました。平成 14 年のテーマ「パソコン利用の現状と展望」から実に 8 年ぶりの AT 関連テーマとなります。基調講演には、東京大学先端科学技術研究センターの中邑賢龍（なかむら けんりゅう）先生をお迎えし、これからのコミュニケーション支援のあり方についてお話しいただきます。また、話題提供では AT を活用している特別支援学校やパソコンボランティア、ソフトウェアの開発メーカー、当センターピコピコルームの事例を紹介します。講演・事例を通して、コミュニケーション支援について改めて考えていく機会になればと思います。

主催　：島田療育センター（東京都地域の拠点機能支援事業）
後援　：多摩市、多摩市教育委員会
実施日時　：平成 23 年 2 月 6 日（日）　13:00～16:30
会場　：島田療育センター　厚生棟
対象　：多摩地域の障害児者および家族・障害支援に関わるスタッフなど
参加定員　：100 名（申込み先着順）

内容

第 1 部　基調講演
○中邑　賢龍氏「これからのコミュニケーション支援のありかた」
（東京大学先端科学技術研究センター　人間支援工学分野　教授）
第 2 部　パネルディスカッション
○加藤　仁道氏　（多摩桜の丘学園　第Ⅱ部門高等部　主任教諭）
○中島　重則氏　（情報ボランティアの会（八王子）　代表）
○五藤　博義氏　（レデックス株式会社　代表取締役社長）
○岸野　栄一氏　（島田療育センター　理学療法科長兼ピコピコルーム代表）

お申し込み

下記 FAX、メール又はホームページの専用フォームよりお申し込みください。
※お名前、ご所属、参加人数を記載してお送りください。
FAX　042-374-2089　（ホームページより申込書のダウンロードができます）
E-mail　info-room@shimada-ryoiku.or.jp
URL　http://www.shimada-ryoiku.or.jp

問い合わせ先
支援部地域連携情報室
電話　042-374-2101
（受付　平日 9 時～12 時、13 時～17 時 45 分）

# 韓国研修

## 韓国障害者の地域移行～研修に参加して

地域連携情報室　齊藤美三男

昨年 10 月 26 日（月）から 30 日（土）まで、当センターでは第 8 回の海外研修が実施され、今回は 2008 年以来二度目となった韓国の福祉や教育等の現場を視察し、木実谷院長はじめ１２名の様々な職種が参加した。

視察先は知的障害者生活施設、職業リハビリテーション施設、重度障害者療育施設、重症脳性マヒ児童療養施設、重度知的障害・脳性マヒ・肢体不自由児生活施設、幼稚部～高等部知的障害児特殊学校、中等部・高等部身体障害児特殊学校などで、同一社会福祉法人が入所施設や特殊教育学校を運営している法人も多々見受けられた。

韓国では 2008 年に「障害者差別禁止及び権利救済などに関する法律」が施行され、地域での自立は、どこに誰と住みどう暮すかは自分で選択する権利とそれに必要な支援を受ける権利があり、施設での生活を押し付けられてはならないと規定。また、教育は障害のない生徒と同じ学校に行き、すべての校内活動に参加する権利を規定。雇用は募集・採用から配置・昇進など、雇用のすべてにわたり障害を理由に差別してはならず、雇用者の側に障害者が仕事をできるよう正当な便宜をはかる義務を規定している。

韓国には、約 200 万人を超える障害児者が登録され、その中の親のない利用者など、約 2%は施設に入所しているといわれ、それ以外の多くは在宅での生活を送っている。しかし、在宅で生活する障害児者の約 7%は施設への入所を希望しているが、絶対的に施設は不足しているそうである。そのような状況の中、入所施設では障害の「地域社会で生活する権利」実現の為、グループホーム（GH）や在宅などに移行する「脱施設化」が進められていた。児童施設は 18 歳を過ぎると基本的には退所しなくてはならないが、多くの利用者は継続入所し、特に親のいない方や親がいても在宅生活が困難な方達の地域移行先として GH（訓練型 GH 含む）があった。また、親がいて在宅生活が可能と思われる方には週末の帰省を奨励し、親のいない児童については、子供の自立を手伝う里親ボランティア先での宿泊を行っているケースもあった。また、地域で自立して生活していくためには経済的基盤が必要であり、職業リハビリテーション施設や特殊学校教育では、具体的な職業に結びつくような訓練や教育に力を入れていた。

障害者権利条約の「地域社会で生活する権利」は、日本でも今後の障害者総合福祉法（仮称）に盛り込むことが検討されているようである。入所施設から地域への移行は世界的な流れではあるが、私たちの重症心身障害児施設に入所させることは「人権侵害」という、何か釈然としない意見もある中、今後の動向が気になるところである。

ソウル市内の知的障害者のグループホーム

**Q**

**太っている人を見ると、「太っているね」と大きな声で言ってしまいます。どうしたらいいでしょうか？**

**A**

広汎性発達障害・自閉症のお子さんの中には、その場の状況や相手の気持ちを想像して発言したり、行動することが苦手な方がいます。悪気なく言ってしまっている場合も多いので、その点を理解してあげることが必要です。

まず、正しいことではあっても、相手に失礼になってしまう場合があることを理解してもらうことが大切です。どのような状況において、どのようなことを言っていいのか・悪いのかについて、説明しましょう。また、言われた相手がどう思うか、自分が言われたらどう思うかについて考えてもらうことも大切です。

そして、相手が嫌な気持ちになることは言わないように約束し、「もし言いたくなったら、お母さんにこっそり言う」など具体的な対処法も事前に考えておきます。約束を守って言わずにいられた時や対処法を使えた時には、すかさずほめて、子どもの正しい行動にきちんと注目するようにしましょう。もし、言いたそうなそぶりが見られた時や実際に言ってしまった時には、人差し指を口元にあてるなどの合図を送り、発言を止めさせます。そして、もう一度、約束や次はどのようにすればいいかについて確認をしましょう。この際にも、サインを見て約束を思い出せたことなど、そのお子さんなりに頑張れたことを見つけて、ほめるように心がけてください。徐々にステップアップできるよう、大人がサポートしていくことが必要です。（心理判定員　和田聡美）

# 家族支援プロジェクト

## パパの子育て体験談＆交流会

言語聴覚士　武内典恵

昨年 12 月５日、第８回「子育てパパの体験談を聴く会＋交流会」を開催しました。以前から「父親も参加できる会を」との要望があり、今回はお父様 3 人にそれぞれ体験談を語っていただきました。発達障害のお子さん、体にハンディのあるお子さんのご家族合せて 21 家族、40 人近い参加があり、ご夫婦の他にお父様お一人の姿も見られました。

前半の体験談では、まず小学校 1 年男の子のお父様が、コミュニケーションに苦慮しながらお子さんを理解し受け入れてきた過程、母親を支えることの大切さ等をパワーポイントで明快にお話いただきました。お二人目は、海外出張など多忙な中、親の会の代表も務め、３人のお子さんを育ててこられたお父様が、高校３年の息子さんの育ちを、パワーポイントでわかりやすくお話くださいました。苦手な科目の工夫など学校の先生との協働作業や、きょうだいや母親を支える父親の存在に頼もしさを感じました。最後は、礼拝から駆けつけてくださった牧師さまです。息子さんが数少ない疾患であるため先が見えにくいけれど、使命感を持って子どもを愛し育てることの幸せと、父親のもてる無限の可能性を、「君は愛されるために生まれた」という美しい歌に込めて伝えてくださいました。

後半の交流会は、父、母、父母合同のグループ計３つに分かれ、それぞれファシリテータの司会進行で行いました。父親グループでは、お子さんの将来、学校生活、きょうだい関係などの意見や心配事などが活発に語られ、母親グループよりも時間が足りないくらい

でした。講師のお父様から、「子どもと毎日接しているお母さんにはかなわないが、父親だからこそできることがある。夫婦のコミュニケーションが大切」「家庭の元気は、お母さんの元気から。お母さんを楽にしてあげよう」などのアドバイスがありました。お母様グループでは、いろいろな思いを共感して、最後に子どものいいところを出し合って終わり、父母合同グループでは、普段からお母さんをねぎらうこと、親同士が繋がることの大切さを確認されていました。

今回の企画を通して、普段お父様方は集まって語り合う機会がなく、それぞれ悩みや思いを巡らせていらっしゃるのではないかと感じました。夫婦のコミュニケーションとあわせて、時には父親同士、語り合い分かち合う経験が大切なのではないでしょうか。「父親同士は、飲むと話もはずむのですが」などと聴きますが、　お茶でもいける、ということがうれしい発見でした。

こどもを愛し育てる大人の使命を果たすことは簡単なことではないかもしれませんが、見通しがたたず、手立てや工夫に迷ってしまう時は、似た経験をもつ方や先輩の存在がとても大きな支えになります。お母さんたちだけでなく、お父さんたちも繋げることがプロジェクトの新たな使命です。プロジェクトを支えて下さった地域のみなさま、ありがとうございました。来年度もどうぞよろしくお願いいたします。

# 第7回 心理講演会

# 心の育ちを考える～大人が持つべき視点とは～

今回は、発達障害のお子さんや気になるお子さんの健やかな心の育ちのために、子どもたちをどのように捉えどのように支援していけばよいのかということについて、国立国際医療センター国府台病院の齊藤万比古(さいとう　かずひこ)先生にご講演いただきます。

● プログラム：

**第一部　13:00～14:30　講　　演**

齊藤　万比古氏
（国立国際医療研究センター国府台病院
精神科部門診療部長）

**第二部　14:45～16:00　事例検討・質疑応答**

齊藤　万比古氏（　同　上　）
渋谷　由紀子氏
（八王子市立第四小学校特別支援教育コーディネーター）
山本　秀二　氏
（島田療育センター　心理相談室　室長）

● 主　催：島田療育センター
（東京都地域の拠点機能事業）
● 日　時：平成 23 年 3 月 27 日（日曜日）
13:00～16:00（受付 12:30～）
● 場　所：島田療育センター　厚生棟
● 定　員：150 名（要事前申込）
● 参加費：無料

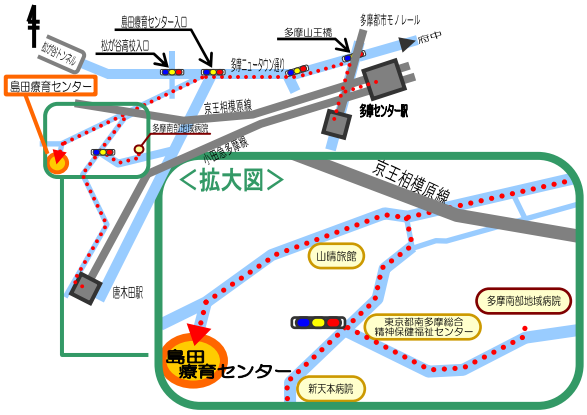
申し込み方法
参加ご希望の方は当センターホームページにある**申込フォーム**よりお申し込み下さい。申込フォームでのお申込みが難しい場合はFAXでのお申し込みも受け付けます。
申し込みの締切りは**3月18日(金)17:45まで**とさせていただきます。
FAX：042-374-2089
URL：http://www.shimada-ryoiku.or.jp

# 歩み続けて50年　そして未来へ
## ～50周年記念行事について～

５０周年記念実行委員　（副院長）　有本潔

島田療育センターは昭和 36 年 5 月に、未だ山林であった当地に我が国始めての重症心身障害児施設として誕生いたしました。平成 23 年 5 月に満 50 歳を迎えますので、平成 23 年度にさまざまな記念行事を計画しております。半世紀におよぶ歴史を振り返り、情勢の変化の中で、地域や社会の中で必要とされる役割を果すべく未来をみつめていこう、と行事全体のテーマを、標題のように「歩み続けて 50 年　そして未来へ」としました。このテーマは職員の公募で選んだものですが、今後様々な所で、皆様の目に触れることと存じます。記念式典（平成 24 年 2 月頃を予定）や、記念誌の発行などの他、当センターのわいわい祭りなどの行事で、50 周年を意識した取り組みを行なう予定です。また、40 周年の際には、当センターの創立の頃の歴史を振り返る試みとして、「愛はすべてをおおう　小林提樹と島田療育園の誕生」という書籍の編集を開始し、2003 年に中央法規出版より出版いたしましたが、今回は初代園長小林提樹の幅広い精力的な活動の跡を中心にたどる書籍を上梓いたします。施設の根拠となる法律・制度のない中で障害児のおかれた状況を社会に訴え続け、障害児や家族の支えになろうと努力した当時の状況は、新しい法律や制度の運用が不透明な今日にも通じるものがあります。緊張感を持って、障害支援のあり方を考えることが求められていることを再認識する機会となることと存じます。

これらの催しのお問い合わせは…
**地域連携情報室へどうぞ**
TEL:042-374-2101
（問い合わせ時間　平日9:00～17:45）
FAX:042-374-2089
※E-mail とURLは下記をご参照ください。




〈徒歩〉
多摩センター駅下車
→約20　分

〈バス〉
多摩センター駅
バスターミナル12　番乗り場
「南部地域病院」行き
　→約7分
終点「南部地域病院」
→下車　徒歩5分

## 編集後記

年が明けて、寒さが更に厳しくなってきました。2 月 3 日は節分ですね。節分といえば、豆まき。季節の変わり目には邪気が生じやすいと考えられ、邪気を払うために行われるようになったそうです。明治期には、豆を暖炉に並べて、その焼け具合で今後 1 年の天候や豊凶を占っていたそうです。豆もいろんな使われ方をしていたんですね。豆をまいて今年 1 年元気に過ごしましょう！！（林）

編　集：社会福祉法人　日本心身障害児協会
島田療育センター　支援部　地域連携情報室
住　所：〒206-0036　東京都多摩市中沢 1-31-1
電　話：042-374-2071（代表）
E-mail：info-room@shimada-ryoiku.or.jp
U R L：http://www.shimada-ryoiku.or.jp